

「改めて、『鈴鹿型』コミュニティ・スクールとは」

1. コミュニティ・スクールに至る経緯

- ① 学校現場の実情
  - 15年前の鈴鹿市の学校の状況
  - 膨張する教育内容
  - さらに複雑化する社会状況
  - 学校の先生は、誠意と熱意をもって教育に取り組んでいるが、「学校は無力ではないが、無限の力を持っているわけではない。」
  - 学校の先生だけで教育を進めるのではなく、地域や保護者の力をお借りして、または、参加してもらうことで、先生が今まで以上の力を発揮できるようにしたい。
- ② 学校支援ボランティアの組織化
- ③ 鈴鹿市教育委員会の取組
  - 市内の学校を回る中で見えてきた課題
  - 「学びのネットワーク」と「安全安心のネットワーク」2つのネットワークづくり
  - 「学校支援地域本部事業」
- ④ コミュニティ・スクールへ
  - 真の意味での「地域ぐるみの教育」を構築するために
  - コミュニティ・スクールは法律に基づく制度なので、地域の皆さんに学校教育の当事者として、学校運営や子どもたちの教育に参画してもらうことができる。

2. コミュニティ・スクールとは、

- コミュニティ・スクールとは、学校運営協議会を設置した学校
- コミュニティ・スクールの役割
  - ① 校長が作成する「学校運営の基本方針」を承認する。
  - ② 学校運営について、教育委員会や校長に意見を述べることができる。
  - ③ 学校運営に必要な支援について協議する。  
(平成29年の地教行法改正で)学校支援活動についても議論してもらうことになった。

○ 学校評議員制度と学校運営協議会制度の違い

3. 「鈴鹿型」コミュニティ・スクールとは

- ① 学校支援活動を基盤としたコミュニティ・スクール
  - ② 鈴鹿市全体で取り組むコミュニティ・スクール
  - ③ それぞれの地域の多様性を大事にしたコミュニティ・スクール
- 鈴鹿市では、「支援型」⇒「連携型」⇒「協働型」のコミュニティ・スクールを目指している。
- 「支援型」学校支援活動を中心とした参加（ボランティアのイメージ）
- 「連携型」学校の教育課題の共有と改善に向けた協議（サポーターのイメージ）
- 「協働型」教育課題の改善に、それぞれの立場でそれぞれが主体的に活動する。（パートナーのイメージ）
- 「連携と協働のどこが違うのかが分かりにくい」と問われることが多いですが、「主体的で具体的な活動」が「協働型」のポイントです。）

4. コミュニティ・スクールからの広がり

- ① 学校支援活動が生涯学習や生きがいにもつながる。
- ② まちづくりにもつながる。